

磐城時報

編集者 石城郡平町 印刷所 石城郡平町 電話 〇〇〇〇

平町の舗装道路

一縷の望はある

十一日委員が上京して 内務、大蔵兩省に陳情

平町の舗装道路工事計画は既報の如く實現の可能性があるらしかつたので平町當局で縣と共に政府に陳情運動を試みたが、その後政府ではその必要を認めぬ博覽會に臨席した後自動車で磐城に歸郷した。

御機嫌奉伺

村井知事は十日平町の昭和産業の後政府ではその必要を認めぬ博覽會に臨席した後自動車で磐城に歸郷した。

天杯披露

山崎清三氏 天杯披露 平町公會堂建設の委は十一日午前十一時から平町役場に開き、過般委員が視察した結果の報告あり、本年年度中に着工する事に決定した。工費は既報の如く、總額五萬圓とし先づ本年度豫算に計上して一萬圓の積立金で工事に着手する計である。

本年の所得税額は 一割内外減額か

猪狩庄平氏委員長で 調査委員會始まる

昭和七年度の所得税その他の税務員總出で各町村に出張調査せしめ、額を決定する調査委員會は十日資料と納税者の申告により、一般財源が委員となり二十日間の豫定界の不況の結果所得税額は著るで開會中であるが、過般來平務し減少を示し前年に比べ税額

四倉漁港

七月起工式

四倉築港工事は工費四十四萬圓で着工する事となつたが、縣と地元と協議の結果七月上旬起工式を舉行し山口技師が主任となり金澤、神谷、畑野三技師が監督の下に工事にかゝる事になつた。

平町の公會堂は 本年度中に着工

二ヶ年繼續事業で完成

平町公會堂建設の委は十一日午前十一時から平町役場に開き、過般委員が視察した結果の報告あり、本年年度中に着工する事に決定した。工費は既報の如く、總額五萬圓とし先づ本年度豫算に計上して一萬圓の積立金で工事に着手する計である。

水小人會

平署管内 水水小賣り人組合總會は九日午前一時から平署會議室で開會、六、七年度豫算、決算を附議、伊藤署長訓示の後健康診断を終つて本年度料金協定を破つて廉價販賣をなすもの勢からするに鑑み今後は右に關し嚴重取締傳染病發生の原因となり悲慘なが代表となり平土木監督所を通り認可申請中であつたが十を

平町近郊 合併協議

平町町是調査會では十一日午後一時から役場に委員會を開き、内郷村の小島、御嶽境兩部落、二百三十戸、神谷村の向鎌田、六十戸、平窪村の鯨岡、大室、幕の内三部落五十五戸、好間、村の川中子、大館兩部落百三十戸、合計四百七十五戸以上各部落の合併の件について協議した。

滞納處分

平町署では今期滞納稅納八件、三万七千圓に對し十日差押え處分を斷行したが、更に近く第二次の差押えを行ふ。

大敷網問題 正式契約

大正十五年より紛糾を續けてゐる小名濱漁業權の紛糾問題は既報の如く圓滿解決を見既に覺書交換し八日平町に關係者參集の上正式契約を取交す筈であつたが、關係者は都合に依り十一日延期され、更に高橋巨氏の病氣等に依り延ばされてゐたが、愈々来る十六日福島市に於て小名濱、江名兩組合、高橋巨氏、白井博之氏、縣水産課員參集の上前記契約を取結ぶことになつた。之でかねて紛糾を重ねて居た外五件の紛糾を働いた事發た問題も愈々最後の纏まりを見舞ふ譯である。

患者を装つて 増田醫院を荒す

怪漢二名平驛で捕はる

當時住所不定無職若松市榮町生五名の表裏後組合の不況對策並に武藏定藏(三三)安積郡穂積村に固有原野放牧地並に採草地使生れ猪越三郎(二七)の兩名は十用料免除を陳情に關し協議した。日午後六時頃平町南町耳鼻咽喉科醫院増田之方に患者風を装つて上り込み掛つてあつたオーバでも収入の途をはかることに意を平署署警刑事が平驛まで追跡し格闘の上逮捕した、二人は同様手段を用ひ各方面で窃盜を働いてゐたもので余罪取調へ中

水に悩まされてゐた 綴部落民に福音

簡易水道布設計劃 十一日附で認可さる

石城郡内郷村大字綴附近一帯は善後策を講究中であつたが、水質が悪く飲料に適さない上に磐城炭礦より引水し簡易水道新設を計劃し代表者佐藤久太郎氏、水不足で殊に夏期等は之がため設を計劃し代表者佐藤久太郎氏、傳染病發生の原因となり悲慘なが代表となり平土木監督所を通り認可申請中であつたが十を

艦上戰闘飛行機 夏井海岸に不時着陸

高久上空で發動機故障 千葉縣立山飛行場艦上戰闘飛行機六機は十日朝立山を出發し他一千八百圓で不日着上する筈で曹長の操縦する「タニ三三」機が高久村上空で發動機に故障を生じ夏井村海岸に不時着陸し附近青年團、消防組員の手を借り修理中である。

赤井梨畑に 奇病發生

平青年訓練所 入所僅か十名 平町では今年度の青年訓練所入所該當者三百名に對しかねて勸誘中であつたが入所締切一ヶ月を超過した今日に至るも願書を提出したのは僅かに十名足らずと言ふ悲觀すべき状態にあるので首腦部は青年連の無自覺を極度に憤慨してゐる。

患者を装つて 増田醫院を荒す

怪漢二名平驛で捕はる 當時住所不定無職若松市榮町生五名の表裏後組合の不況對策並に武藏定藏(三三)安積郡穂積村に固有原野放牧地並に採草地使生れ猪越三郎(二七)の兩名は十用料免除を陳情に關し協議した。日午後六時頃平町南町耳鼻咽喉科醫院増田之方に患者風を装つて上り込み掛つてあつたオーバでも収入の途をはかることに意を平署署警刑事が平驛まで追跡し格闘の上逮捕した、二人は同様手段を用ひ各方面で窃盜を働いてゐたもので余罪取調へ中

産馬組合會 免除を陳情

採草地使用料 石城郡産馬組合では九日午前十一時から組合事務所臨時總會最後陳情をなすことに決定し

草料免除はこれまで數回主務省に陳情を試みて遂に成功しなかつたが、今回は山間部落の救済のため石に嚙ちりついても實現

迅速と廉價 印刷物は 加納活版所

草料免除はこれまで數回主務省に陳情を試みて遂に成功しなかつたが、今回は山間部落の救済のため石に嚙ちりついても實現

草料免除はこれまで數回主務省に陳情を試みて遂に成功しなかつたが、今回は山間部落の救済のため石に嚙ちりついても實現

鬼熊第二世

川部に現はる

石城郡川部村大字沼部無職蛭田治(二三)は数年前から精神に異常を呈し最近甚だしく七日午前十時頃自宅附近で草刈り鎌を揮つて俺は第二の鬼熊になるんだと他人に暴行を加へるので植田署で保護を加へてゐる。

狂氣か正氣か 怪しい女の氣焰

驛待合室に九日の朝から年齢三十歳位女給風の舉動不審の女が大トランクニツを提てのるのを平署宮内巡查が発見驛前派出所で取調べんとすると一私は満州奉天まで大手を振つて歩いた女だから貴郎等の取調へなど受ける必要はない侮辱するぞ承知しないなど豪語し何といても住所姓名をいはないので本署に連行したがこれまた同様開蓋連絡船中では斯うしたことがあつたとかあらゆる貴顯紳士の名などを連ねて署員を煙に巻く始末で散々手古摺らした上仙臺までの旅費をくれとせがんでどうしても肯かす止むなく中村までの切符を買つてやると仙臺か青森でなくば行かぬ若し無理に乗せるならば途中飛降りて自殺するなどと切符を破つて到々乗らす止むなく平署に留置したが場内でも九州から大連方面のことを口走つて果ては警察の厄介になる位なら首を絞つて死ぬなど衣類を破る有様で嚴重監視をなさねばならぬ始末であつたが十日朝漸く納得せしめて旅立たせたが何處ともなく去つた、たゞ僅に岡田むつ實といふ女で文學をよくするといひ全くその文才には驚かされた

位、狂人にも等しいが興奮状態らしく或ひは狂女を装ひ旅を追ふて行くこれが一種の職業ではないかとも観られてゐる、彼の女の書いた詩の一節を表現してゐた全く謎の女である

どうせ望みのないならば
さわいて怒つて悲観して
私の心を偽つた
一つの心はもつたけど
あとから襲ふさびしさに
段々弱くなる私

一つは悪魔に過ぎなはれ
一つの心は神と見る
そのいつれかに行くべきか
知りつゝわれは尚迷ふ
我がわが身をこへおます
性格破産のわれなれば

病室完備
平町南町

鼻の薬チクノール
平五 山野邊藥局

外科 専門 X光線科

上田外科醫院
電話一二九番

入院 應需

特賣會

レンコート 特賣
春のセビロ 特賣
春のズボン 特賣
夏トニビ 特賣
防水マント合ゴム上等品 一圓三十五錢
紺サージ通學服 三圓四十錢

平町四丁目停車場通

正札堂洋服店

電話四三六番

腸胃 専門 内科
十二指 虫腸病 腸胃性 腸病

梅毒 専門 皮膚病 婦人病 淋病

村松 院 醫科
電話(七〇一話) 町南町平

レコード破りの石炭大特賣

磐城炭礦二二等炭

正味十貫匁一俵金卅錢也

「品が良く」「値は安く」をモットーとする當店は、此度超破格の格安石炭を販賣開始致します。値が安くとも品は悪くはありません。磐城炭礦の處分的大掘出物です、品物の無くならない中に御注文下さい。

配達は一俵より致します。

御注文は
電話二三七番へ

平 停車場前
阿部石炭商店

飲料

オリガビール
純粕取焼酎
サイダー各種

平町南町
永山酒造店
電話二七〇番

女給さん 數名募集

ランチルーム一の井

御希望の方へ平町十五丁目一の井へハガキで申込下さい

油と味噌

山崎合名會社

福島縣平町

電話(營業部専用)一〇番
(一般用)二七番
振替東京一九七五五番

明治生命 磐城代理店 山崎與三郎

公債 高價買入

勸業債券 電話買入

御一報次第店員參上可仕候

平町五丁目二二二
佐々木株式店
電話二五三番

貸切御用命ハ

ゼヒ 三井自動車部へ

電話六八五番

乗合は 好間・合戸・澤渡方面行

専門 内科一般

内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン

平町南町六五改(電話一八一番)

川井内科診療所

醫學士 川井重子
女醫 川井安子